平成19年3月期 個別中間財務諸表の概要



平成18年11月20日

上場会社名 株式会社ヤマウ 上場取引所

JASDAQ

コード番号

5284

問合せ先責任者 役職名 取締役管理本部長

本社所在都道府県

福岡県

(URL http://www.yamau.co.jp/)

者 役職名 代表取締役社長

氏名 権藤 勇夫

氏名 中村 健一郎

TEL (092)872-3301

決算取締役会開催日

平成18年11月20日

配当支払開始日

単元株制度採用の有無 有(1単元1,000株)

1. 平成18年9月中間期の業績(平成18年4月1日~平成18年9月30日)

(1) 経営成績

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売上高			営業利益	益	経常利益		
	百万円		%	百万円	%	百万円	9	
18年9月中間期	4, 563	(3.7)		\triangle 121	(—)	\triangle 123	(—)	
17年9月中間期	4, 402	(8.7)		27	(—)	6	(—)	
18年3月期	11, 230			518		492		

	中間(当期)	純利益	1株当たり中間(当期	用)純利益	
	百万円		%	円	銭
18年9月中間期	△ 109	(—)		\triangle 24	33
17年9月中間期	16	()		3	67
18年3月期	386			85	63

(注) ① 期中平均株式数

(普通株式) (優先株式) 18年9月中間期 18年9月中間期

4,507,162株 17年9月中間期 4,507,660株 18年3月期 4,507,660株 2,000,000株 17年9月中間期 2,000,000株 18年3月期 2,000,000株

② 会計処理の方法の変更

③ 売上高、営業利益、経常利益、中間(当期)純利益におけるパーセント表示は、対前年中間期増減率

(2) 財政状態

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
18年9月中間期	9, 062	1, 130	12. 5	117	79
17年9月中間期	8, 518	848	10.0	55	06
18年3月期	9, 555	1, 246	13. 0	143	47

(注) ① 期末発行済株式数

(普通株式) (優先株式)

18年9月中間期 4,506,060株 17年9月中間期 4,507,660株 18年3月期 4,507,660株

18年9月中間期 2,000,000株 17年9月中間期 2,000,000株

18年3月期 2,000,000株

② 期末自己株式数

18年9月中間期

999,940株 17年9月中間期

998,340株

18年3月期

998,340株

2. 平成19年3月期の業績予想(平成18年4月1日~平成19年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益		
	百万円	百万円	百万円		
通期	12, 262	400	390		

1株当たり予想当期純利益(通期)

3. 配当状況

・現金配当	1	1株当たり配当金(円)							
	中間期末	期末	年間						
18年3月期	0	0	0						
19年3月期(実績)	0	_							
19年3月期(予想)	_	0							

^{*} 上記予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざ まな要因によって予想数値と異なる場合があります。

「期中平均株式数」

	平成18年9月期	平成17年9月期	平成18年3月期		
	株	株	株		
普通株式	4, 507, 162	4, 507, 660	4, 507, 660		
優先株式	2, 000, 000	2, 000, 000	2, 000, 000		

「期末発行済株式数」

7 7 4 7 1 1 2 H 1 4 10 1 1 1 1 1 1 4 22 4	· -		
	平成18年9月期	平成17年9月期	平成18年3月期
	株	株	株
普通株式	4, 506, 060	4, 507, 660	4, 507, 660
優先株式	2, 000, 000	2, 000, 000	2, 000, 000

- 「1. 平成18年9月中間期の業績」指標算式
- 1株当たり当期純利益

中間(当期)純利益 期中平均普通株式数

○ 1株当たり純資産

純資産合計 — 中間期末発行済優先株式数 × 発行価額 中間期末発行済普通株式数

- 「2. 平成19年3月期の業績予想」指標算式
- 1株当たり予想当期純利益

予想当期純利益 期末発行済普通株式数(当中間期末)

6. 中間財務諸表等

中間財務諸表

① 中間貸借対照表

			間会計期間末 17年9月30日)			間会計期間末 18年9月30日)	,	前事業年度の 要約貸借対照表 (平成18年3月31日		
区分	注記 番号	金額(構成比 (%)	金額(構成比 (%)	金額(構成比 (%)
(資産の部)										
I 流動資産										
1 現金及び預金		1,041,060			870, 244			755, 761		
2 受取手形	※ 2, 4, 5	1, 749, 612			1, 595, 843			2, 441, 055		
3 売掛金		1, 234, 109			1, 593, 553			1, 990, 031		
4 たな卸資産		1, 557, 647			1, 748, 298			1, 300, 162		
5 その他	※ 6	83, 235			172, 664			74, 680		
6 貸倒引当金		△80, 490			△80, 575			△109, 723		
流動資産合計			5, 585, 175	65. 6		5, 900, 028	65. 1		6, 451, 968	67. 5
Ⅱ 固定資産										
1 有形固定資産	※ 1, 2									
(1) 建物		643, 970			682, 271			704, 777		
(2) 機械及び装置		475, 817			550, 875			552, 922		
(3) 土地		1, 178, 109			1, 178, 109			1, 178, 109		
(4) その他		352, 341			402, 500			330, 790		
有形固定資産合計			2, 650, 239	31. 1		2, 813, 757	31. 1		2, 766, 599	29. 0
2 無形固定資産			32, 508	0.4		39, 714	0.4		37, 131	0.4
3 投資その他の資産										
(1) 投資その他の資産	※ 2	553, 358			583, 524			578, 561		
(2) 貸倒引当金		△302, 992			△274, 558			△279, 097		
投資その他の資産 合計			250, 365	2.9		308, 965	3. 4		299, 464	3. 1
固定資産合計			2, 933, 113	34. 4		3, 162, 437	34. 9		3, 103, 195	32. 5
資産合計			8, 518, 289	100.0		9, 062, 466	100. 0		9, 555, 163	100.0

区 (負債(I 流動負債 1 支払手用 2 買掛金 3 短期借力 4 未払金 5 賞与引言 6 その他	の部) ド ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	生記 番号 ※4	金額(1,231,574 444,717	(17年9月30日) 千円)	構成比 (%)	金額(18年9月30日) 千円)	構成比 (%)	金額(18年3月31日) 千円)	構成比(%)
(負債) I 流動負債 1 支払手刑 2 買掛金 3 短期借力 4 未払金 5 賞与引き	の部) ド ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	番号 ※4	1, 231, 574 444, 717	千円)	(%)	金額(千円)	(%)	金額(千円)	(%)
I 流動負債 1 支払手刑 2 買掛金 3 短期借力 4 未払金 5 賞与引き	》		444, 717							'	
 支払手用 買掛金 短期借力 未払金 賞与引き 	入金 >		444, 717					l			
 2 買掛金 3 短期借力 4 未払金 5 賞与引き 	入金 >		444, 717								
3 短期借力4 未払金5 賞与引き		※ 2				1, 426, 729			1, 673, 669		
4 未払金 5 賞与引き		※ 2	000 000			616, 925			568, 510		
5 賞与引旨	当金		200, 000			300, 000			200, 000		
	当金	- 1	_			485, 262			_		
6 その他			59, 859			48, 027			59, 790		
			473, 115			103, 738			644, 221		
流動負債	責合計			2, 409, 267	28. 3		2, 980, 684	32. 9		3, 146, 191	33. (
Ⅱ 固定負債											
1 長期借力	入金 ,	※ 2	4, 738, 600			4, 438, 600			4, 638, 600		
2 退職給何	寸引当金		468, 596			464, 980			467, 820		
3 その他			53, 621			47, 412			55, 849		
固定負債	責合計			5, 260, 818	61. 7		4, 950, 992	54. 6		5, 162, 269	54. (
負債合言	 			7, 670, 085	90. 0		7, 931, 676	87. 5	,	8, 308, 460	87. (
(資本の	の部)							,	,		,
I 資本金				800,000	9. 4		_	_		800, 000	8. 4
Ⅱ 資本剰余会											
1 資本準備			300, 000			_			300,000		
資本剰余	余金合計			300,000	3. 5		_	_		300, 000	3. 1
Ⅲ 利益剰余金											
1 任意積立	立金		8, 928			_			8, 928		
2 中間未知	心理損失		286, 029			_			_		
3 当期未知	心分利益		_			_			83, 435		
利益剰	余金合計			△277, 101	△3. 2		_	_		92, 363	1. (
IV その他有値 評価差額会				36, 434	0.4		_	_		65, 468	0.6
V 自己株式				△11, 129	△0.1		_	_		△11, 129	△0.
資本合言	H			848, 204	10.0		_	_	,	1, 246, 702	13. (
負債・資	資本合計			8, 518, 289	100. 0		_	_	,	9, 555, 163	100.0

			間会計期間末 17年9月30日)		間会計期間末 18年9月30日)		前事業年度の 要約貸借対照表 (平成18年3月31日)		
区分	注記 番号	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)		構成比 (%)
(純資産の部)										
I 株主資本										
1 資本金						800, 000				
2 資本剰余金										
(1) 資本準備金					300, 000					
資本剰余金合計						300, 000				
3 利益剰余金										
(1) その他利益剰余金										
特別償却準備金					4, 747					
繰越利益剰余金					△22, 049					
利益剰余金合計						△17, 301				
4 自己株式						△11, 561				
株主資本合計						1, 071, 136	11.8			
Ⅲ 評価・換算差額等			-							
1 その他有価証券 評価差額金						59, 652				
評価・換算差額等 合計						59, 652	0. 7			
純資産合計						1, 130, 789	12. 5			
負債純資産合計						9, 062, 466	100.0			

② 中間損益計算書

			(自 平)	中間会計期間 成17年4月1 成17年9月30		(自 平)	中間会計期間 成18年4月1 成18年9月30		要終 (自 平	事業年度の 損益計算書 成17年4月1 成18年3月31	
	区分	注記 番号	金額(千円)	百分比 (%)	金額(千円)	百分比 (%)	金額(千円)	百分比 (%)
I	売上高	※ 5		4, 402, 605	100.0		4, 563, 557	100.0		11, 230, 243	100.0
П	売上原価	※ 6		3, 157, 658	71. 7		3, 455, 063	75. 7		8, 136, 343	72. 5
	売上総利益			1, 244, 947	28. 3		1, 108, 494	24. 3		3, 093, 899	27. 5
Ш	販売費及び一般管理費	% 6		1, 217, 028	27. 7		1, 230, 032	27. 0		2, 575, 528	22. 9
	営業損失			_	_		121, 538	2. 7		_	_
	営業利益			27, 919	0.6		_	_		518, 371	4. 6
IV	営業外収益	※ 1		21, 493	0.5		43, 169	1.0		62, 049	0.6
V	営業外費用	※ 2, 6		42, 984	1.0		45, 593	1.0		88, 302	0.8
	経常損失			_	_		123, 961	2. 7		_	_
	経常利益			6, 428	0. 1		_	_		492, 118	4. 4
VI	特別利益	※ 3		48, 169	1. 1		36, 846	0.8		32, 143	0. 2
VII	特別損失	※ 4		32, 306	0. 7		17, 484	0.4		127, 077	1. 1
	税引前中間純損失			_	_		104, 598	2. 3		_	_
	税引前中間(当期)純 利益			22, 291	0. 5		_	_		397, 184	3. 5
	法人税、住民税 及び事業税		6, 687			6, 011			13, 061		
	法人税等調整額		△944	5, 743	0. 1	△944	5, 066	0.1	△1,889	11, 171	0. 1
	中間純損失			_	_		109, 665	2. 4		_	_
	中間(当期)純利益			16, 548	0. 4					386, 012	3. 4
	前期繰越損失			302, 577						302, 577	
	中間未処理損失			286, 029						_	
	当期未処分利益			_						83, 435	

③ 中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間(自 平成18年4月1日 至 平成18年9月30日)

				株主	資本			
		資本剰	制余金		利益剰余金			
	資本金		資本剰余金	その他利	益剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
	,,,_	資本準備金	合計	特別償却準 備金	繰越利益剰 余金	合計		
平成18年3月31日残高(千円)	800,000	300,000	300, 000	8, 928	83, 435	92, 363	△11, 129	1, 181, 233
中間会計期間中の変動額								
利益処分による 特別償却準備金の取崩				△2, 786	2, 786	_		_
特別償却準備金の取崩				△1, 393	1, 393	_		_
中間純損失					△109, 665	△109, 665		△109, 665
自己株式の取得							△432	△432
株主資本以外の項目の中間 会計期間中の変動額(純額)								
中間会計期間中の変動額合計 (千円)	_	_		△4, 180	△105, 484	△109, 665	△432	△110, 097
平成18年9月30日残高(千円)	800,000	300,000	300,000	4, 747	△22, 049	△17, 301	△11, 561	1, 071, 136

評価・換算差額		算差額等	
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	純資産合計
平成18年3月31日残高(千円)	65, 468	65, 468	1, 246, 702
中間会計期間中の変動額			
利益処分による 特別償却準備金の取崩			_
特別償却準備金の取崩			_
中間純損失			△109, 665
自己株式の取得			△432
株主資本以外の項目の中間 会計期間中の変動額(純額)	△5, 815	△5, 815	△5, 815
中間会計期間中の変動額合計 (千円)	△5, 815	△5, 815	△115, 913
平成18年9月30日残高(千円)	59, 652	59, 652	1, 130, 789

項目	前中間会計期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日)	当中間会計期間 (自 平成18年4月1日 至 平成18年9月30日)	前事業年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)
1 資産の評価基準及 び評価方法	(1) 有価証券 ① 満期保有目的の債券 …償却原価法(定額	(1) 有価証券 ① 満期保有目的の債券 同左	(1) 有価証券 ① 満期保有目的の債券 同左
	法) ② 子会社株式等 …移動平均法による 原価法	② 子会社株式 同左	② 子会社株式等 同左
	③ その他有価証券ののでは、	③ その他有価証券 時価証券 時価を表示ののでは、 時価をは、 時価では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	③ その価証券 他有価証券 他有価証券 他有あまの ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
2 固定資産の減価償 却の方法	(1) 有形固定資産 定率法 なお、耐用年数及び残人 存価額に規定は大法とり 存価独に規定よっておっただし、 のただし、取得円未に 10万円以上20万円未に 少額減価債質却資産産産 で3年間で均して 方法を採用して なまます。	(1) 有形固定資産 定率法 なお、主な耐用年数 は、以下のとおりであり ます。 建物 7年~50年 機械及び装置 12年	(1) 有形固定資産 定率法 なお、耐用年数及び残 存価額に知っては、法とり 税法に規定よってお面に規定より のただし、取得価満 のただし、取得一大調 がでする方法 の方円以上20万円未 の方円以上20万円未 がでする がでする では がでする がでする では がでする がでする では がでする では がでする では がでする では がでする では がでする では がでする では がして の では の で は に の に に に に に に に の が に に に の が に に に の に が に の に に の に の
	す。 (2) 無形固定資産 定額法 おいま に で で で で で で で で で で で で で で で で で で	(2) 無形固定資産 定額法 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間 (5年)に基づく定額法によっております。	す。 (2) 無形固定資産 定額法 おいま 一次 では、

項目	前中間会計期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日)	当中間会計期間 (自 平成18年4月1日 至 平成18年9月30日)	前事業年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)
	(3) 長期前払費用 定額法 なお、償却期間につい ては、法人税法に規定す る方法と同一の基準によ	(3) 長期前払費用 定額法	(3) 長期前払費用 定額法 なお、償却期間につい ては、法人税法に規定す る方法と同一の基準によ
	っております。	() (Debat = Lyle A	っております。
3 引当金の計上基準	(1) 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損 失に備えるため、次の方 法により計上しておりま す。 ① 一般債権 貸倒実績率によって ジ 貸倒懸念債権及び破 産更生債権 個別に、回収不能見込 額を計上しておりま	(1) 貸倒引当金 同左	(1) 貸倒引当金 同左
	す。 (2) 賞与引当金 従業員の賞与の支給に 備えるため、支給見込額 に基づき計上しておりま す。	(2) 賞与引当金 同左	(2) 賞与引当金 同左
	(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備 えるため、当期末におけ る退職給付債務及び年金 資産の見込額に基づき、 当中間会計期間末におい て発生していると認めら れる額を計上しておりま	(3) 退職給付引当金 同左	(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備 えるため、当期末におけ る退職給付債務及び年金 資産の見込額に基づき、 当期末において発生して いる額を計上しておりま す。
	す。 過去勤務債務について は、その発生時の従業員 の平均残存勤務期間以内 の一定の年数(10年)によ る按分額を費用処理して おります。	同左	同左
	数理計算上の差異については、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による按分額をそれぞれ発生の翌期より費用処理しております。	同左	同左

項目	前中間会計期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日)	当中間会計期間 (自 平成18年4月1日 至 平成18年9月30日)	前事業年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)
4 リース取引の処理	リース物件の所有権が借	同左	同左
方法	主に移転すると認められる		
	もの以外のファイナンス・		
	リース取引については、通		
	常の賃貸借取引に係る方法		
	に準じた会計処理によって		
	おります。		
5 その他中間財務諸	(1) 消費税等の会計処理	(1) 消費税等の会計処理	(1) 消費税等の会計処理
表(財務諸表)作成の	税抜方式によっており	同左	同左
ための基本となる重	ます。		
要な事項			
	(2) 税効果会計		
	当中間会計期間に係る		
	納付税額及び法人税等調		
	整額は、当期において予		
	定している利益処分によ		
る特別償却準備金の取崩			
を前提として、当中間会			
計期間に係る金額を計算			
	しております。		

会計処理の変更

(自 平成17年4月1日	(自 平成18年4月1日	(自	平成17年4月1日
至 平成17年9月30日)	至 平成18年9月30日)	至	平成18年3月31日)
(関 の準年20でに企9) こまな相ま中中は表明を	借対照表の純資産の部の表示にる会計基準等) 中間会計期間から「貸借対照表 資産の部の表示に関する会計基 (企業会計基準委員会 平成17 月9日 企業会計基準の部の表 「貸借対照表の純資適用指針」 「貸借対照表地資適用指針」 業会計基準委員会 平成17年12 日 企業会計基準 番適用しております。 れによる損益に与える影響はあせん。 お、従来の「資本の部」の合計 当する金額は1,130,789千円であ	<u></u>	平成18年3月31日)

表示方法の変更

前中間会計期間	当中間会計期間
(自 平成17年4月1日	(自 平成18年4月1日
至 平成17年9月30日)	至 平成18年9月30日)
	(中間貸借対照表) 前中間会計期間において流動負債の「その他」に含めて表示しておりました「未払金」(前中間会計期間409,949千円)については、負債及び純資産合計の100分の5超となったため、当中間会計期間より区分掲記しております。

注記事項

(中間貸借対照表関係)

前中間会計期間末	当中間会計期間末	前事業年度末	
(平成17年9月30日) ※1 有形固定資産の減価償却累計	(平成18年9月30日) ※1 有形固定資産の減価償却累計	(平成18年3月31日)※1 有形固定資産の減価償却累計	
※1 有形向た質性の機価値対系計 額	次1 有形固足質座の機間負却系計 額	※1 有形面に貫座の機間負却系訂 額	
7,036,656千円	6,259,826千円	6,266,976千円	
**2 担保に供している資産及びこ	※2 担保に供している資産及びこ	※2 担保に供している資産及びこ	
れに対応する債務は次のとおり	れに対応する債務は次のとおり	れに対応する債務は次のとおり	
であります。	であります。	であります。	
(1) 担保に供している資産	(1) 担保に供している資産	(1) 担保に供している資産	
受取手形 100,201千円	受取手形 100,024千円	受取手形 100,101千円	
建物 517,801千円	建物 559,606千円	建物 580,554千円	
構築物 505千円	構築物 467千円	構築物 485千円	
松岳及び	松岳及八	松井及び	
機械及び 38,057千円 装置	装置 30,836千円	機(M) 33, 214千円 装置 33, 214千円	
土地 1,115,887千円	土地 1,115,887千円	土地 1,115,887千円	
投資有価 168,916千円	投資有価 205, 106千円	投資有価 214,508千円	
<u> 証券</u> 計 1,941,369千円	<u>証券</u> 計 2,011,929千円	<u>証券</u> 計 2,044,752千円	
(2)対応する債務の内容	(2) 対応する債務の内容	(2) 対応する債務の内容	
短期借入金 200,000千円	短期借入金 300,000千円	短期借入金 200,000千円	
長期借入金 4,738,600千円	長期借入金 4,438,600千円	長期借入金 4,638,600千円	
計 4,938,600千円	計 4,738,600千円	計 4,838,600千円	
3 保証債務	3 保証債務	3 保証債務	
従業員の金融機関からの借入	従業員の金融機関からの借入	従業員の金融機関からの借入	
金に対し保証を行っておりま	金に対し保証を行っておりま	金に対し保証を行っておりま	
す。	す。	す。	
26,629千円	27,418千円	23,403千円	
子会社のリース債務に対し連	子会社のリース債務に対し連	子会社のリース債務に対し連	
帯保証を行っております。	帯保証を行っております。	帯保証を行っております。	
5,831千円	13, 213千円	13,465千円	
	※4 中間会計期間末日満期手形の		
	処理		
	中間会計期間末日満期手形の		
	会計処理については、手形交換		
	日をもって決済処理をしており		
	ます。		
	なお、当中間会計期間の末日		
	が金融機関の休日であったた		
	め、次の中間会計期間末日満期		
	手形が中間会計期間末残高に含		
	まれております。		
	受取手形 112,910千円		
	支払手形 19,289千円		
※5 手形割引高及び裏書譲渡高	※5 手形割引高及び裏書譲渡高	※5 手形割引高及び裏書譲渡高	
受取手形裏書 58,618千円 譲渡高	受取手形 割引高 391,705千円	受取手形 割引高 250,395千円	
HAX V.X.I.F.J	na 2 Hei	必	
		マ	
※6 消費税等の取扱い	※6 消費税等の取扱い		
仮払消費税等及び仮受消費税	同左		
等は、相殺のうえ流動資産の			
「その他」に含めて表示してお			
ります。			

(中間損益計算書関係)

	前中間会計期間 (自 平成17年4月1日	当中間会計期間 (自 平成18年4月1日	前事業年度 (自 平成17年4月1日	
	至 平成17年9月30日)	至 平成18年9月30日)	至 平成18年3月31日)	
※ 1	営業外収益の主要項目	※1 営業外収益の主要項目	※1 営業外収益の主要項目	
	受取利息 1千円	受取利息 148千円	受取利息 48千円	
	受取配当金 2,998千円	受取配当金 2,597千円	受取配当金 3,417千円	
		鉄屑処分収入 14,902千円	保険配当金収入 6,326千円	
			鉄屑処分収入 11,698千円	
※ 2	営業外費用の主要項目	※2 営業外費用の主要項目	※2 営業外費用の主要項目	
	支払利息 39,610千円	支払利息 38,101千円	支払利息 78,460千円	
	減価償却費 1,781千円	減価償却費 1,663千円	減価償却費 3,566千円	
※ 3	特別利益の主要項目	※3 特別利益の主要項目	※3 特別利益の主要項目	
	土地売却益 3,412千円	貸倒引当金 28,859千円	土地売却益 3,412千円	
		戻入額 20,009 円	投資有価証券売 28 731千四	
	投資有価証券売 却益 28,731千円		却益 ————————————————————————————————————	
	貸倒引当金 戻入額 16,025千円			
※ 4	特別損失の主要項目	※4 特別損失の主要項目	※4 特別損失の主要項目	
	機械及び装置 除却損 1,805千円	機械及び装置 除却損 13,016千円	機械及び装置 除却損 5,863千円	
	その他固定資産 除却損 431千円	その他固定資産 除却損 4,250千円	その他固定資産 除却損 50,058千円	
	たな卸資産 10,428千円		災害損失 22,807千円	
	評価損 10,426 円		業務契約解約損 13,000千円	
	災害損失 17,730千円		たな卸資産評価 32,565千円 損	
※ 5	当社の売上高は季節的変動が	※5 当社の売上高は季節的変動が	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
清	暫しく、事業年度の上半期と下	著しく、事業年度の上半期と下		
<u>></u>	ド期との間に著しい相違があり	半期との間に著しい相違があり		
90	ます。	ます。		
	なお、当中間会計期間末に至	なお、当中間会計期間末に至		
7	る1年間の売上高は次のとおり	る1年間の売上高は次のとおり		
-	であります。	であります。		
	前事業年度 の下半期 7,009,494千円	前事業年度 の下半期 6,827,637千円		
	当中間会計 期間 4,402,605千円	当中間会計 期間 4,563,557千円		
	計 11,412,099千円	計 11,391,195千円		
※ 6	減価償却実施額	※6 減価償却実施額	※6 減価償却実施額	
	有形固定資產 114,500千円	有形固定資産 131,433千円	有形固定資産 248,558千円	
	無形固定資產 1,852千円	無形固定資産 2,645千円	無形固定資產 3,973千円	
	投資その他の 資産 2,332千円	投資その他の 資産 2,064千円	投資その他の 資産 4,622千円	

(中間株主資本等変動計算書関係)

当中間会計期間(自 平成18年4月1日 至 平成18年9月30日)

自己株式に関する事項

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当中間会計期間末
普通株式(株)	998, 340	1,600	_	999, 940

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取りによる増加 1,600 株

前中間会計期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日)

リース物件の所有権が借主に移転 すると認められるもの以外のファイ ナンス・リース取引に係る注記

① リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び中間期 未残高相当額

> 有形固定資産 有形固定資産 「その他」 「その他」 「その他」 (エクトウェ (車両及び運(工具器具及(ソフトウェ 合計 搬具) ひ備品) ア)

	DR 9%)	0.188 00)		
	千円	千円	千円	千円
取得価額 相当額	133, 684	637, 460	385, 865	1, 157, 010
減価償却 累計額 相当額	50, 388	261, 759	201, 998	514, 146
減損損失 累計額 相当額	8, 635	61, 274	_	69, 910
中間期末 残高 相当額	74, 660	314, 426	183, 866	572, 953

② 未経過リース料中間期末残高 相当額及びリース資産減損勘定 中間期末残高

未経過リース料中間期末残高相 当額

	1 年以内	240,354千円
	1年超	385, 102千円
1	合計	625, 457千円
リ ー .	ス資産減損勘	定中間期末残
高		

21,842千円

③ 支払リース料、リース資産減 損勘定の取崩額、減価償却費相 当額、支払利息相当額及び減損 損失

> 支払リース料 158, 264千円 リース資産 減損勘定の 18, 811千円 取崩額 減価償却費 相当額 121, 913千円 支払利息 相当額 20, 910千円

- ④ 減価償却費相当額及び利息相 当額の算定方法
 - ・減価償却費相当額の算定方法 …リース期間を耐用年数と し、残存価額を零とする定 額法によっております。
 - 利息相当額の算定方法
 - …リース料総額とリース物件 の取得価額相当額との差額 を利息相当額とし、各期へ の配分方法については、利 息法によっております。

当中間会計期間 (自 平成18年4月1日 至 平成18年9月30日)

リース物件の所有権が借主に移転 すると認められるもの以外のファイ ナンス・リース取引に係る注記

① リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び中間期末残高相当額

有形固定資産 有形固定資産 「その他」 「その他」 医の (ソフトウェ (本両及び運(工具器具及(ソフトウェ (本両及び運(工具器具及ア)) で備品)

П					
ı		千円	千円	千円	千円
	取得価額 相当額	160, 724	768, 179	392, 299	1, 321, 203
	減価償却 累計額 相当額	75, 753	243, 287	280, 075	599, 116
	減損損失 累計額 相当額	7, 383	_	_	7, 383
	中間期末 残高 相当額	77, 586	524, 892	112, 224	714, 703

② 未経過リース料中間期末残高 相当額及びリース資産減損勘定 中間期末残高

未経過リース料中間期末残高相 当額

	1 年以内	293, 504千円
	1年超	454, 163千円
	合計	747,667千円
リース資産減損勘定中間期末残		
高		

2,750千円

③ 支払リース料、リース資産減 損勘定の取崩額、減価償却費相 当額、支払利息相当額及び減損 損失

支払リース料174,176千円リース資産
減損勘定の
取崩額3,070千円取崩額
減価償却費
相当額149,984千円

支払利息
相当額24,114千円④ 減価償却費相当額及び利息相

- 当額の算定方法 ・減価償却費相当額の算定方法
- ・ 減価償却資相当額の昇定方法 同左
- ・利息相当額の算定方法 同左

前事業年度

(自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)

リース物件の所有権が借主に移転 すると認められるもの以外のファイ ナンス・リース取引に係る注記

① リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

有形固定資産 有形固定資産 「その他」 「その他」 (ソフトウェ (車両及び運(工具器具及 ア) 搬具) び備品)

	千円	千円	千円	手円
取得価額 相当額	158, 595	806, 237	392, 299	1, 357, 132
減価償却 累計額 相当額	65, 020	246, 827	240, 983	552, 831
減損損失 累計額 相当額	8, 635	27, 054	_	35, 689
期末残高 相当額	84, 939	532, 355	151, 316	768, 611

② 未経過リース料期末残高相当 額及びリース資産減損勘定期末 残高

未経過リース料期末残高相当額

1年以内	275, 114千円
1年超	496,949千円
合計	772,063千円

リース資産減損勘定期末残高

5,820千円

合計

③ 支払リース料、リース資産減 損勘定の取崩額、減価償却費相 当額、支払利息相当額及び減損 損失

> 支払リース料 330,764千円 リース資産 減損勘定の 34,833千円 取崩額 減価償却費 相当額 258,012千円 支払利息 相当額 43,169千円

- ④ 減価償却費相当額及び利息相 当額の算定方法
 - ・減価償却費相当額の算定方法 同左
 - ・利息相当額の算定方法 同左

有価証券関係

前中間会計期間末(平成17年9月30日)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

当中間会計期間末(平成18年9月30日)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

前事業年度末(平成18年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

1株当たり情報

中間連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

重要な後発事象

前中間会計期間(自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日) 該当事項はありません。

当中間会計期間(自 平成18年4月1日 至 平成18年9月30日) 該当事項はありません。

前事業年度(自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日) 該当事項はありません。 継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況

前中間会計期間(自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日)

当社は、金融機関からの支援を受け前事業年度において債務株式化を実行するとともに、現在も、一部の借入金についてプロラタ返済(借入残高比率による計画返済)を実施しております。当該状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しております。

当社は、当該状況を解消すべく、平成16年3月に策定された「新中期経営計画(平成16年4月1日~平成21年3月31日)」を前事業年度より本格的に実行しております。

収益面については、売上高減少の歯止め策として、営業所の統廃合による効率的な人員配置、大学との共同研究や異業種との協力による新製品の開発、OEM製品の拡大を主軸とするアライアンスの推進等を実施し改善に努めております。又、コスト削減策として鉄筋加工会社の設立による鉄筋加工の内製化の拡大、物流コストの削減、製造業務請負会社の設立による製造部門労務費の変動費化並びに工場・ラインの統廃合による内部原価の削減を計画に従って実行しております。今後も更なる工場・ラインの統廃合を慎重に推進し、生産効率の向上を図り、更なる改善に努める所存であります。

財務面については、前事業年度において資本金及び資本剰余金の取り崩しによる欠損填補並びに債務株式化の実施による財務体質の強化を図りました。又、当中間会計期間末までに本州からの事業撤退による遊休不動産をはじめとする売却可能な資産の処分を進め、有利子負債の圧縮を実行いたしております。

経営体制面については、抜本的事業改革の推進及び意思決定の迅速化を図るべく、前事業年度において 取締役4名体制とするとともに組織を大幅に簡素化いたしました。

中間財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な疑義の影響を反映しておりません。

当中間会計期間(自 平成18年4月1日 至 平成18年9月30日) 該当事項はありません。

前事業年度(自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日) 該当事項はありません。